

子ども読書支援センターニュース No.160

2017. 9. 30

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：平成29年10月3日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

（9月のおはなし会で使った本）

『おめくんぱちぱち』 とよたかずひこ/脚本・絵 童心社 2004

『おつきみおぼけ』 せなけいこ/作・絵 ポプラ社 2015

『ペンぎんたいそう』 齋藤楨/さく 福音館書店 2016

『のせてのせて』 松谷みよ子/文 東光寺啓/絵 童心社 1969

★秋のスペシャルおはなし会

○日時：平成29年10月29日（日）11：00～11：50 ○会場：山口県立山口図書館 第1研修室

○対象：幼児・小学生とその保護者 ○実演：お話の出前 ジョイントネット萩「草の芽」のみなさん

○内容：影絵「ジャックと豆の木」「さるとかに」他 ○定員：30名程度（要申込み・先着順 保護者人数は除く）

○申込締切：10月28日（土）

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『にこにこばあ』 新井洋行/作 えほんの社 2017.7 ¥762

白の絵の具がチューブから飛び出し、にこにこ笑顔で「ばあ!」と登場。黒いいやいや怒った顔で、「えーん」と泣き出してしまいます。そんな2色が混ざって灰色になると…。さらに、青、赤、黄色が「いーれーてー!」とやってきて…。色が混ざると、どんな色・形になるのかな?ページをめくるのが楽しくなる赤ちゃん絵本。絵本「いろいろばあ」シリーズの第3弾。

<絵本-3, 4歳から>

『サンカクさん』 マック・パーネット/文 ジョン・クラッセン/絵 長谷川義史/訳 クレヨンハウス 2017.9 ¥1800

サンカクさんとシカクさんには、お互いに苦手な「こわ〜い」ものがある。サンカクさんはシカクさんの家に遊びに行くが、ついつい悪さをしてしまう。意地悪されたシカクさんも、サンカクさんの家に行って仕返しを…。シンプルな三角と四角の図形で表現されるサンカクさんとシカクさんの目の表情にご注目。絵本作家の長谷川義史による大阪弁の訳文も楽しい絵本。

『その100かいだてのいえ』 いついとしお/作 偕成社 2017.8 ¥1200

ある寒い雪の日、おなかを空かせたシジュウカラのツピくんは、一粒のひまわりの種を見つける。でも、一粒ではおなかがいっぱいにならないと考えたツピくんは、花を咲かせて種を増やそうと、種植の場所を探しに空へ飛び立つ。くもさん、あめさん、にじさんなど、新しいキャラクターがツピくんを迎える。「100かいだてのいえ」シリーズ第4弾。

<絵本-5, 6歳から>

『手おけのふくろう』 ひらののぶあき/文 あべ弘士/絵 福音館書店 2017.6 ¥1400

北国の民家の古木を巣にして、毎年子育てをしていたふくろう夫婦。ところが、その木が倒れてしまい、巣を失ったふくろう夫婦は、民家の軒先に吊された手おけの中に卵を産む。時には雪が吹き込み、天敵のハクビシンにも狙われるという悪条件を乗り越え、3羽のヒナを巣立ちに導いたふくろう夫婦の子育てと、里山の人間との関わりの物語。山形県での実話をもとに描いた絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『ごちそうの木 タンザニアのむかしばなし』 ジョン・キラカ/作 さくまゆみこ/訳 西村書店 2017.8 ¥1500

むかしむかし、日照りで食べ物が無くなってしまった土地に、たわわに実のなる大きな木があった。でも、動物たちが木をゆすっても、なぜか実は落ちてこない。おなかのすいた動物たちは、どうしたら実が食べられるか、賢いカメに聞きに行くが…。タンザニア出身の絵本作家が、自国の昔話を明るい画風で描いた絵本。2011年ピーターパン・シルバースター賞受賞作。

『夢の川』 マーク・マーティン/作 海都洋子/訳 六耀社 2017.7 ¥1500

都会に住む少女の家の窓からは、街を流れる川が見える。もし、銀の舟に乗ってこの川をくだったら 何があるのだろうか…。部屋の窓から流れる川を見下ろして、少女は思いをめぐらせる。車でいっぱい都会、煙が立ちこめる工場の町、緑豊かな田園地帯、動物たちが住むジャングル、魚たちがひしめく豊かな海…。美しい絵と詩的な言葉で語りかける絵本。

<絵本-小学校中学年から>

『すこいね!みんなの通学路 世界に生きる子どもたち』 ローズマリー・マカーニー/文 西田佳子/訳 西村書店 2017.7 ¥1500

世界の子どもたちはどうやって通学するのだろうか。日本では徒歩やバス等で通学するが、世界には遠い道りを長時間かけて通学する子どもたちが大勢いる。険しい山や崖を越え、川を渡ったり、自分たちの飲み水や机を運びながら通学したり…。でも、学校が好きだから、友達と遊ぶのは楽しいから学校へ通う。通学路での子どもたちのひたむきな姿と笑顔をとらえた写真絵本。

<読み物—小学校低学年から>

『わすれんぼっち』 橋口さゆ希/作 つじむらあゆこ/絵 PHP 研究所 2017.9 ¥1100

黄色い傘の「ひかちゃん」は、メグちゃんに電車の中に忘れられて、わすれものセンターへ。持ち主が現れなければ、1週間後には「はなれ」に連れて行かれ、二度と持ち主に会えない「わすれんぼっち」になってしまう。メグちゃんとの出来事を思い出し、家に帰りたいと願うひかちゃんだったが…。第17回創作コンクールつばさ賞童話部門優秀賞・文部科学大臣賞受賞のデビュー作。

<読み物—小学校中学年から>

『まんぷく寺でまっています』 高田由紀子/作 木村いこ/絵 ポプラ社 2016.9 ¥1200

万福寺の一人息子の小4の裕輔はおぼうさんになる勉強会参加のために坊主頭。でも、寺のことに興味ないし、坊主頭をからかわれるしでうんざりしていた。ある日の席替えて、父親を事故で亡くしてから、全くしゃべろうとしない美雪が隣。美雪に寄り添いたい裕輔は、美雪の父親の一周忌を前に、自分にできるはないかと考えた。自分自身もお寺の子である著者によるデビュー作。

『拝啓、お母さん』 佐和みずえ/作 かんべあやこ/絵 フレーベル館 2017.7 ¥1300

小4のゆなは、母親が流産の危険があるため急遽入院したことで、遠く離れた九州の祖父母の家で夏休みを過ごすことに。納得のいかないゆなは、「もう妹なんかいらぬ」と、ひどい言葉を母親に投げつけてしまった。後悔したゆなは、祖父の印刷所を手伝ううちに、一字一字活字を拾って活版印刷で手紙を書き、母親への気持ちを届けることを思いつく。ひと夏の成長物語。

<読み物—小学校高学年から>

『奮闘するたすく』 まはら三桃/著 講談社 2017.6 ¥1400

小5の佑は、同級生の一平と一緒におじいちゃんの通うデイサービスの施設へ通い、そこで見たこと聞いたことを夏休みのレポートにして提出しなくてはならないことに。インドネシアからの研修生の話の聞いたり、看取りの部屋にいる人の状況を知るうちに、介護される人と介護する人、それぞれの気持ちに気づいていく。避けては通れない介護の問題に、子どもなりに対峙する1冊。

<読み物—中学生から>

『15歳、ぬけがら』 栗沢まり/著 講談社 2017.6 ¥1300

心を病んだ母とあたしが住んでいるのは一番ボロい市営住宅。学校の給食だけが頼りなのに先生は知りもしない。同情を拒み、強く生きようとする中3の麻美だが、非行に手を染める仲間たち、男の人をあてにする母を目の当たりにし…。そんな麻美が出会ったのは学習支援塾「まなび〜」。貧困の中で強く生きようとする子どもたちの姿を描く。第57回講談社児童文学新人賞佳作受賞作品。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『みんなの防災えほん』 山村武彦/監修 YUU/絵 PHP 研究所 2017.8 ¥1600

地震や台風、大雨や大雪に遭遇した時、身を守るためにどのような行動をとればいいのか、どのような備えをしておくべきか等を、わかりやすいイラストと簡潔な言葉で解説する。また、日頃から身の回りにある危険について気づけることの大切さも具体的に紹介。避難所での過ごし方や、携帯電話の災害用伝言ダイヤル等新しい情報も。学校で必要とされている防災教育に役立つ1冊。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『きのこのふしぎえほん』 山本亜貴子/作・絵 保坂健太郎/監修 PHP 研究所 2017.8 ¥1600

きのこはどんなところにはえているの？どうやって大きくなるの？野菜じゃないの？雷の電気刺激でよく育つてどうということ？光ったり、伝説があったり、毒があったり、胞子を飛ばしたり、知れば知るほど魅力がいっぱいのきのこについて、ストーリー形式で楽しく学べる知識絵本。丁寧なイラストと、わかりやすい言葉で解説。漢字はすべてルビつき。

『続 ざんねんないきもの事典』 今泉忠明/監修 高橋書店 2017.6 ¥900

「ハトは仰向けにされると動けないので、マジックで重宝がられる」「チンパンジーは自分より強い相手に愛想笑いをする」「ダンゴムシはおしりから水を飲む」進化の結果、なぜかちょっと残念な感じになってしまった生き物たちを、楽しいイラストとともに紹介する。左ページのパラパラ漫画も楽しい。2016年5月発行の『ざんねんないきもの事典』の続編。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『「がん」になるってどんなこと?』 林和彦/編著 セブン&アイ出版 2017.2 ¥1400

大切な人ががんになったら…。3つの実話をもとに、がんについて知っておきたいことや、家族はどうすればいいのかを解説する。がん患者とその家族の行動や思いが、それぞれ日記形式に綴られ、状況を理解するのに役立っている。巻末には、小学校での実際の授業の様子を掲載。著者は、がん教育を実現するために、教員免許を取得した東京女子医科大学の医学博士。

<ノンフィクション—中学生から>

『もっとやりたい仕事がある!』 池上彰/著・監修 小学館 2017.7 ¥1800

750 職種の仕事の内容や仕事に就くための方法、関連ジョブなどを紹介した仕事選びのポータルガイド。2色刷りで、重要ポイント、参考サイトの検索キーワードも掲載。これからの働き方や仕事観についての池上彰による解説や10のコラム、関連する様々な「Topics」も紹介する。2005年初版、2010年第2版の『やりたい仕事がある!』の内容を刷新したもの。

『図解身近にあふれる「科学」が3時間でわかる本 思わずだれかに話したくなる』 左巻健男/編著 明日香出版社 2017.7 ¥1400

羽のない扇風機はどうやって風を出すの?「曇らない鏡」はなぜノーベル賞候補?「まぜるな危険」を混ぜたらどうなる?スマホはどうやってネットにつながるの?分からないまま使っている身近な科学技術の仕組みなど、55の疑問に対し、『理科の探検(RikaTan)』誌編集長たちが、理科の苦手な人にも理解できるよう、イラストや図表を用いてやさしく解説する。

<研究書>

『学校図書館の司書が選ぶ小中高生におすすめの本300』 東京・学校図書館スタンプリー実行委員会/編著 ペリかん社 2017.7 ¥1500

本を読んでみたいけど、何を讀んだらいいかわからない、という小中高生のために、東京都内の都立高等学校、私立中学・高等学校で働く専任の学校司書と司書教諭が自信を持って薦める300冊のブックガイド。見開きに4冊ずつ、日本十進分類法の分類番号順に本を紹介。ブックトーク風の紹介文、本のキャッチコピー、書影、書誌情報等もあり。「なるにはBOOKS 別巻」。